

# 花の進化園植栽変更

永木利夫

これまでの「系統進化園」を「花の進化園」と改称・植栽整備し、平成12年4月に完成させた。これは、植物を系統進化の順序に従って分類し植栽してきた「系統進化園」が来園者にその意図が分かりにくいという指摘があったためである。

「花の進化園」は観察路をはさみ、片側に単子葉植物、反対側に双子葉植物を配置することは「系統進化園」の場合と同じであるが、新しい「花の進化園」では花の形や構造に着目し、科をひとつの単位として植栽区分を設けたことが大きな特徴である。

単子葉植物コーナーは、入口から、子房上位から子房下位、放射相称から左右相称の順序で科を配列し植栽した。双子葉植物コーナーは、大きく離弁花類と合弁花類に分け、入口から、離弁花類コーナー、次に合弁花類コーナーへの順序で科を配列した(図1)。

再整備にあたっては、来園者に「花の進化園」を分かりやすくするため、たとえば、植物の配列を理解しやすくする目的で、総合案内やコーナー看板(写真1、2、3、4、5)を設置した。また解説板では花の特徴を、図解や写真を通して説明し、花を「つくり(形、構造)」から観察してそれぞれの違いを発見する手助けとなるようにした(写真6、7、8、9、10)。あわせて水生植物及び湿原植物のコーナーにも解説板を設置した(写真11、12)。

双子葉植物 合弁花類

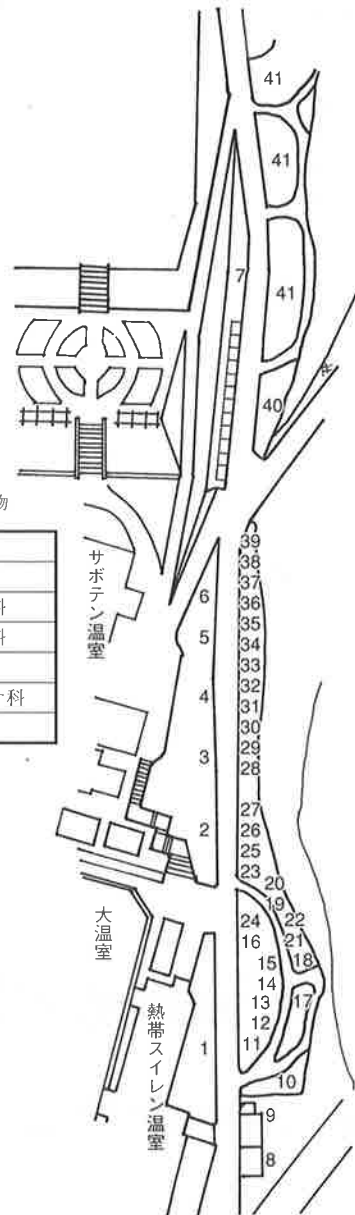
41	キク科
40	キキョウ科
39	マツムシソウ科
38	クマツヅラ科
37	ゴマノハグサ科
36	ハナシノブ科
35	ムラサキ科
34	シソ科
33	ナス科
32	アカネ科
31	ヒルガオ科
30	キョウチクトウ科
29	サクラソウ科
28	ツツジ科

単子葉植物

7	ラン科
6	イネ科
5	サトイモ科
4	ショウガ科
3	アヤメ科
2	ヒガンバナ科
1	ユリ科

双子葉植物 離弁花類

27	セリ科
26	アカバナ科
25	バラ科
24	スミレ科
23	マメ科
22	ユキノシタ科
21	フウロソウ科
20	ベンケイソウ科
19	カタバミ科
18	アオイ科
17	アブラナ科
16	ナデシコ科
15	ツルナ科
14	スベリヒユ科
13	タデ科
12	ヒユ科
11	ケシ科
10	キンボウゲ科
9	メギ科
8	ドクダミ科



※時期により植栽できない科がある



写真1 総合案内板

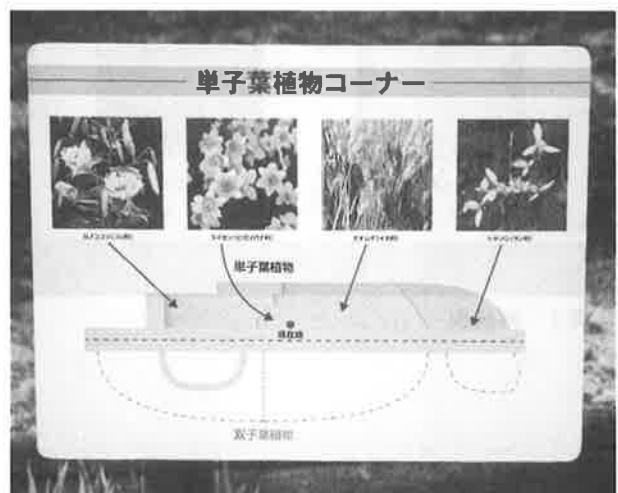


写真2 コーナー看板(単子葉)

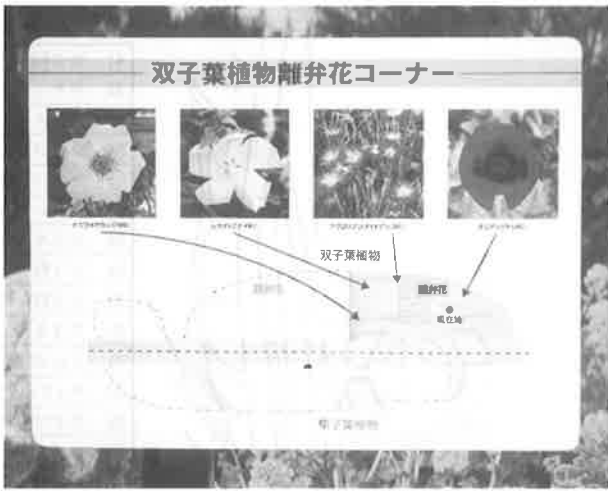


写真3 コーナー看板 (離弁花)

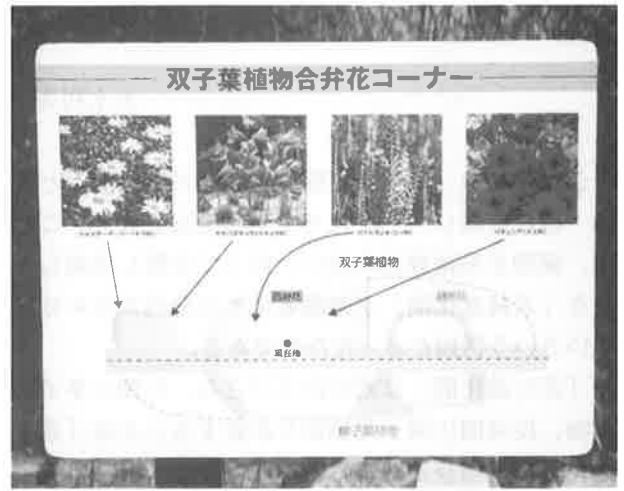


写真4 コーナー看板 (合弁花)

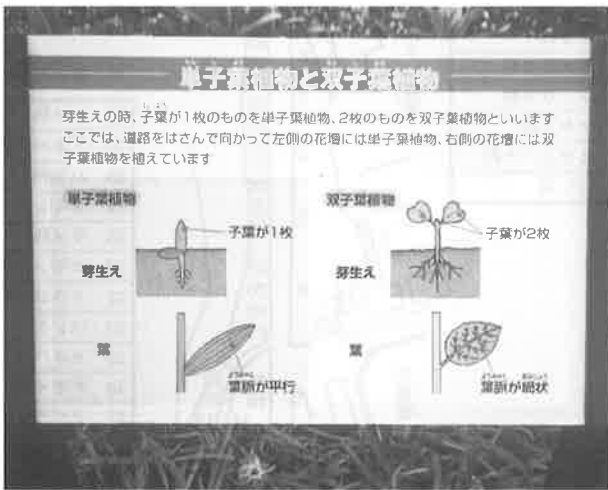


写真5 コーナー看板 (単子葉と双子葉)



写真6 解説板



写真7 解説板

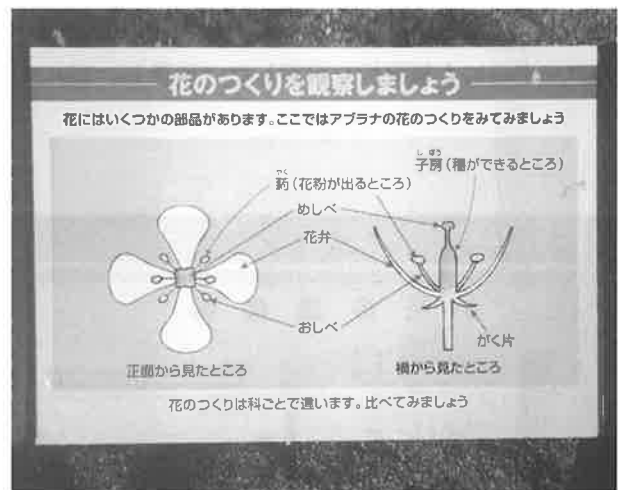


写真8 解説板



写真9 解説板



写真10 解説板



写真11 解説板



写真12 解説板

## 2000年春をよぶラン展の展示記録

濱谷修一・内田喜章

当園では、平成12年1月29日(土)から2月13日(日)にかけて「2000年春をよぶラン展」を開催した。今後の参考とするため、本展示会の展示実績を記録する。なお、本展示会は、昭和62年に開催された「世界蘭会議広島大会」を記念して、以後、毎年2月又は3月に実施しているもので、大温室を主会場とし、当園最大級の予算規模をもつイベントである。

### 展示テーマ

平成12年度広島市文化施設ジョイント事業の統一テーマであった「色」を、本展示会のテーマとした。

### 展示概況

展示ブースは装飾区域と単品展示(品評会)区域に大分した。展示場所として、大温室に植栽している植物の中で移植が比較的容易な区域、大木の下

などで比較的大きな空間が確保できる区域を選んだ。装飾区域については、直営で装飾する区域と、外部団体の材料提供などの協力により装飾する区域に分けた。その区域分けは図1、それぞれの概要は表1に示した。

### 所感

近年は、ランの普及が進み、「ラン展」と銘打つだけでは入園者の増加は難しくなっている。今回の展示期間中入園者は11,816人で、ここ5年ほどは横ばい又は暫減傾向にある(表2)。しかしながら、「ラン展」開催の前後と比べれば入園者は明らかに多くなっており、入園者対策における展示会の効果は否定できない。

また、期間中、「ガイドツアー」や「実演会(植え替えなどのデモンストレーション)」などをほぼ毎日実施し、ソフト面の充実を図った。これは入園者増に即反映されるものではなかったが、参加者にはおおむね好評で、また植物公園に来てみようという気持ちになってもらうための、ひとつのきっかけと